

わかやまをつくり守っています。

わかやまの建設

道路やトンネル、ダム、橋などをつくる「土木のしごと」と、工場やマンション、大型スーパーなどをつくる「建築のしごと」。わたしたちの安全で便利なくらしを支えているこの2つのしごとをあわせて「建設のしごと」といいます。いつも歩く道、わたる橋、海や川の水をせき止めるダムや堤防、学校や図書館・病院など、あたり前のようにあるものばかりだけど、実は全部「建設」の力でできているんです。

第1回

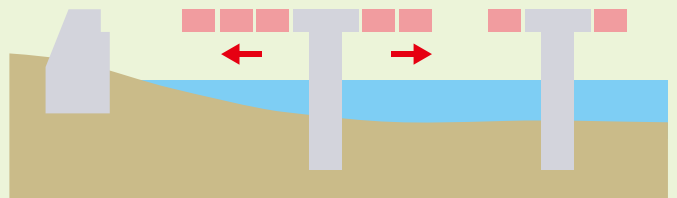
土木のしごと 「熊野川河口大橋」

左右におもりを付けながら、バランスをとってゆれる「やじろべえ」。その仕組みを使って、柱になる「橋さやく」をつくり、そこから上にかかる橋をのぼしていく工事方法を「やじろべえ工法」と言います。三重県と和歌山県をつなぐ「熊野川河口大橋」はこのやじろべえ工法を使って821メートルもの橋をつくっています。



この橋は2024年の秋には開通するよ！

まん中から少しずつのぼして、つなげてゆくよ。



こんなこと知ってる!?

現場の秘密こっそり公開!

熊野川河口大橋の工事は、「この人に聞きました」に登場の野平さんの会社がうけおった新宮市側の出発点の土台(橋りょう)づくりから始まりました。

この土台ひとつにいろんな技術が詰まっています。地上に見える部分だけでなく、地中9.5メートルまで基そがうめられ、しっかりと橋をサポート。また連結した部分を見ると、少しすき間が空いて見えます。これは、たくさんの車が橋をわたるようになった時に、しょうげきをにがすため。いざという時のひなん場所にもなるよう、がんじょうでありながら、じゅうなん性も備えているんです。



重い橋をのっけて倒れない？
ビタリじゃない？
答えは、本文に!



この人に聞きました

建設はいのちを守る仕事。見えない部分もふくめて「地図に残る仕事」としてほこりを持ってつくっています。



野平浩二さん
新宮市立王子小学校
(現 王子ヶ浜小学校)卒

「安全と住みやすさをつくる仕事です」

小さい頃からものづくりが好きでしたが、大人になると積み木やプラモデルではなく本物をつくることができます。ずっと残るものをつくり、それが人の役に立つ。それが建設業のやりがいです。

この仕事をしてもう25年。そのうち地元で手がけた熊野川河口大橋は心に残るお仕事でした。みなさんのひなん場所でもある橋。これからもまちと人を、建設の力で守りたいです。

プレゼントコーナー

和歌山県建設業協会さんから建設学習帳をプレゼント。

担任の先生にお願いして、クラス全員の数で申しこんでもらってください。(ご担任の先生、よろしくお願ひいたします。)

※部数に限りがありますので、お申込多数の場合は先着順とさせていただきます。



【申込方法】
「学校名・クラス名・冊数、住所」をファックスください。
Fax.073-446-8881
白光印刷株式会社まで。

知ってほしい、より安心の制度。

法定外労災
補償制度

建設共済保険

公益財団法人 建設業福祉共済団

制度が変わって、安心充実。今すぐ、ご加入を!

掛金負担
が軽減

手厚い
補償

労働者と
企業のリスク
をカバー

一般社団法人和歌山県建設業協会は「わかやま探検ミュージアム」を応援しています。

一般社団法人 和歌山県建設業協会

〒640-8262 和歌山市湊通北1丁目1-8
和歌山県建設会館 1F

True Construction Works 知ってほしい、本当の建設業を!

